



二千五百年前からのメッセージ

孔子の言葉

今から二千五百年以上も昔、中国で孔子という思想家が活躍しました。一般的に、「孔先生」という意味で「孔子」と呼ばれています。彼と弟子たちの言行を記録した書物が『論語』です。『論語』は、人間のあるべき姿を追求する書物として、中国だけでなく、日本をはじめとして、数多くの国々で読み継がれてきました。

子曰はく、「**①**学びて時に之を習ふ、**②**亦説ばしからずや。朋有り遠方より来たる、亦樂しからずや。人知らずして愠らず、亦君子ならずや。」と。



座っている人物が孔子

目標

- 音読をとおして漢文の表現に慣れる。
- 『論語』を読んで、孔子の考えを捉える。

孔子

前五五一頃―前四七九
中国古代の思想家。姓は「孔」。各地を旅しながら、自らが理想とする政治を説いた。晩年は、弟子たちの教育に力を注いだ。

- ▼ 孔 コウ 氣孔
- ▼ 般 ハン 先般



子曰、「学^{ビテ}而^ニ時^ニ習^フ之^ヲ、不^ズ亦^ニ説^{バシカラ}乎^ヤ。
 有^リ朋^ヲ自^{ヨリ}遠^ク方^ニ来^{タル}、不^ズ亦^ニ樂^{シカラ}乎^ヤ。
 人^レ不^レ知^{シテ}而^レ不^レ慍^ラ、不^ズ亦^ニ君^ニ子^{ナラ}乎^ト。」（学^{ガク}而^シ）

先生がおっしゃるには、「学んで適切な時に復習する、なんとうれしいことではないか。」

友人が遠くから訪ねてくる、なんと楽しいことではないか。
 他人が自分を理解してくれなくても腹を立てない、なんと立派な人物ではないか。」と。

子曰はく、「故^コきを温^ムめて新^ニしきを知^ルば、以^モつて師^シ為^ルるべし。」と。

子曰、「温^ムレ故^コ而^{シテ}知^ル新^ニ、可^ク以^テ為^ル師^ト矣^{ナリ}。」（為^イ政^{セイ}）

先生がおっしゃるには、「古くから伝えられてきた事柄を学んで新しい事態への対処方法を見つけ出すならば、教え導く人になる資格がある。」と。

乎
 疑問・反語・詠嘆を表す。

▼日本各地に孔子をまつた孔子廟がある。
 湯島聖堂大成殿
 （東京都文京区）



子貢問ひて曰はく、

「一言にして以つて終身之を行ふべき者有りや。」と。

子曰はく、「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。」と。

子貢問曰、

「有一言而可以終身行之者乎。」
子曰、「其れ恕乎。己所不欲、勿施於人。」
(衛靈公)

子貢が質問して言うには、

「ただ一言で生涯それを実行すべきものはございますか。」と。

先生がおっしゃるには、「それは思いやりかな。自分がしてほしくないことを、人にしてはいけないよ。」と。

子曰はく、「之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為す。是れ知るなり。」と。

子曰、「知之為知之、不知為不知。是知也。」
(為政)

先生がおっしゃるには、「知っていることを知っているとし、知らないことを知らないとする。それが、知っているということなのだ。」と。

子貢 孔子の弟子。

恕 他者への思いやり。
勿かれ 禁止を表す。

《出典》『新釈漢文大系1
論語』によった。

千 みちしるべ

内容を捉えよう

① 漢文訓読の仕方を理解して音読をしよう。

読み深めよう

② 孔子は人としてどうあるべきだと言っているのか、説明しよう。

自分の考えを伝え合おう

③ 学習した教科書の章句から好きな表現を一つ選び、選んだ理由を説明しよう。

振り返り

- 漢文のリズムや表現の特徴とくちようを理解しているか。
- 孔子の言う、人としてのあるべき姿を理解しているか。

漢文の読み方

▼レ点：レ点と一・二点の一点が複合した符号ふごうです。先に

レ点に従って読み、次に一・二点の二に返って読みます。

② ① ④ ③ ⑧ ⑤ ⑦ ⑥

温ノテ 故ふるキヲ 而 知レバ 新シキヲ 可ベシ 以もツテ 為タル 師 矣。

故きを温めて新しきを知れば、以もつて師シ為るべし。

▼上・下点：一・二点をつけた句を挟はさんで、さらに上に

返って読むときの符号です。

⑩ ① ② ⑧ ③ ④ ⑤ ⑦

有リ 一いち 言げんニシテ 而 可ベキ 以もツテ 終 身 行フ

⑥ ⑨ ⑪

之これヲ 者上 乎ヤ。

一言にして以もつて終身之を行フふべき者有りや。

置き字

「而」「矣」「於」のように、漢文を日本語として読むときに読まない文字があり、これを置き字といいます。置き字は、書き下し文に改めたときにも書きません。